

独学ゴルフで初頂点

ご主人が「参りました」

【女子】

ネット72 ハンディ7、グロス79

61歳の出口 恵美子（小郡）



女子の部優勝の出口恵美子(右)と男子の部4位タイのご主人出口三儀

独学でコツコツ。そして、つかんだ優勝だ。「いつも2位ばかりで。2位タイの時はカウントバックで負けたり」。マスターズゴルフなどで全国大会には出場しており、ホームコースの小郡では勝っているものの、出口はなぜか“九州”とは縁がなかったが、今回、ようやく射止めたのだった。

2バーディー、9ボギーのグロス79。ハンディ7のネット72。「めっちゃくち

や速いグリーンで3パットを4回も。とにかく3パットをしないように気を付けました」。出口が苦しめられたのは9番からの3連続3パットを含む14番までの6連続ボギー。細心の注意は払っても、思うようなパッティングができない。ただ、ダブルボギー以上は叩かなかつたのが優勝につながった。

ゴルフは26歳から始めた。今回、男子の部で出場して4位タイに入賞したご主人の出口三儀（74歳）の勧め。「最初は面白くなくて3年くらいクラブを握らなかつた。何かのきっかけで、はまって。独学でやって、今でも我流。レッスンも受けてないし」。自らのゴルフを磨いて、今回はご主人よりも好成績を残した。「エージシュートを狙っていたんだが」という三儀は上がりホールの8、9番、16、17、18番のボギーが響いてグロス78。惜しくも目標達成はならなかつた。それでも夫人の優勝を自分のことのように喜んだ。

身長147・5センチの出口が自信を持つのが「体は小さいけど、結構飛ぶんですよ」という平均飛距離210～220ヤードのドライバーショット。我流で体得した彼女の武器だ。ある程度の距離を稼げるから大会に出場しても勝負ができる。「でも、競技のゴルフはきつい。心がきついけど、はまったら抜けられない。不思議なスポーツですね」。出口はそう言って笑った。

47歳から始めて62歳で初V

仲良くペアルックで出場

【男子】

ネット66 ハンディ7、グロス73

62歳の西岡 文隆（佐賀クラシック）



男子の部優勝の西岡文隆[Ⓔ]と女子の部 2 1 位の西岡真季夫人

お揃いのペアルック。優勝が決まった時、西岡はアテストをしている真季夫人（48）に向かって「おい、勝ったぞ」と喜びの一声を発した。2度目の出場で初優勝。「前半はよくパーオンもしたし、ショットが良かった。後半は乱れてフェアウエーキープ率も悪かった。前半の貯金が効いた」と西岡がラウンドを振り返った。インスタートで13番50センチ、15、16番と3メートルのバーディーパットを沈めて3アンダー。18番では3メートルのバーディーパットを3パットしてボギーにする。「欲を出して」と反省したが、後半のアウトはノーバーディー、3ボギーの39。18番の3パットから流れが変わったが、グロス73（ハンディ7）で踏ん張り、ネット66でフィニッシュした。

ゴルフを始めたのは47歳とかなり遅い。「土日にするのがなくてね。そう言えば、銀行から無理やり買わされた会員権があった、と思って」と佐賀クラシックに通うようになる。そこで知人から研修会への入会を勧められ、競技にも参加するようになった。現在のラウンド数は年間120回。ホームコースの競技委員にも名前を連ねる。「2年前の還暦の時にはゴルフ仲間が祝ってくれてね。ゴルフは本当にいいね」とゴルフが生活の大事な部分を占める。

佐賀県太良町にある「伸光建設」の代表取締役。港湾などを専門にするダイバーの従業員が20人ほどいて、東日本大震災の復旧作業にも携わった。以前は西

岡自身も潜水士として海に潜っていた。「体力より強い精神力がいますね。今日はその精神力が前半は生きていたけど」と穏やかに笑う。

今年7月、ホームコースのキャプテン杯で真季夫人がホールインワンを達成。西岡夫妻にとって2020年は思い出深い1年となった。



大会が開催された阿蘇大津GC